

## [ 女子競技規則 ]

### ～ 堺種目別優勝大会・堺春季大会 及び 堺選手権中級)

日本体操協会2009年版採点規則(情報15,16号)の「変更規則Ⅰ」と「全国高校総体適用」を元に女子2部競技規則(堺種目別大会・堺春季大会および堺選手権中級で採用)を制定した。以下の説明は2009年版採点規則(情報15,16号)「変更規則Ⅰ」の補足として理解し元の規則と合わせて確認して下さい。

\* 堺選手権初級、上級については 別の規則を定める。(バジテスト後に連絡する。)

#### 【演技の採点】

##### Dスコア(構成)

- ・難度点(DV)・・・跳馬—2009年版採点規則に1.00点をプラスする。
  - 段違い平行棒・・・終末技を含む最大8つの高い順からの難度を数える。
  - 平均台
    - ・・・終末技を含む最大8つの高い順からの難度を数える。
    - \* アクロバット系、ダンス系の区別は行わない。
  - ゆか
    - ・・・最大8つの高い順からの難度を数える。
    - \* 終末技の扱いはない
    - \* アクロバット系、系ダンス系の区別は行わない
- ・同一技の難度は演技の中で1回のみ承認される。
- ・構成要求(CR)・・・各種目に5つの構成要求があり、各要求0.5点。最大2.5点を獲得することができる。
- ・加点・・・段違い平行棒、平均台、ゆかの演技において質の高い演技に対して最大0.3点が与えられる。

##### Eスコア(実施)

- ・実施と芸術性の各減点合計を合わせて、10.00(6技以上の実施)から差し引いた得点
- ・短い演技・・・Eスコアの最高点は以下の通り:
  - 10.00 - 6技以上の実施
  - 7.00 - 5技の実施
  - 6.00 - 4技の実施
  - 5.00 - 3技の実施
  - 4.00 - 2技の実施
  - 3.00 - 1技の実施

【各種目の規則】

\* 2009年版採点規則(情報15,16号)「変更規則Ⅰ」の変更、追加部分です。  
元の規則と合わせて確認して下さい。

跳馬	2009年版採点規則に1.00点をプラスしたDスコアとする。 2回の跳躍を実施し、良い方の得点を有効点とする。 禁止技・・・宙返りを伴う跳躍
----	--

	構成要求(GR)	種目特有の減点の変更	A難度を認められる技に追加(注①)	その他の変更
段違い平行棒	①低棒け上がり ②高棒け上がり ③前方の回転系の技 ④後方の回転系の技 ⑤終末技はA難度以上	・「技の実施なしで棒を変える」を削除する。	・さかあがり ・前方支持回転 ・前方足裏支持回転(かかえ込み) ・後方足裏支持回転(かかえ込み) ・蹲踞(そんきょ) ・高棒～棒下振り出し下り	・後方支持回転と後方浮き支持回転は異なる技とする。  禁止技・・・ ・C 難度以上の技(後方浮き支持回転倒立を除く)
平均台	①前後開脚(180度)の跳躍技を含むダンス系の技の組み合わせ ②片足上のターン(360度以上) ③前方/側方のアクロバット系の技(前転除く) ④後方のアクロバット系の技(後転除く) ⑤終末技はA難度以上	変更なし	・さかあがり(開始技) ・両足踏切～両足又は片足立ち(開始技) ・伸身とび ・かかえ込みとび ・ねことび ・足打ちとび ・前転 ・後転 ・前転とびおり ・側転とびおり ・片足ふみきり側方伸身宙返り下り ・片足ふみきり前方伸身宙返り下り	・開始技の片足ふみきりとびあがり片足立ちは台を手で支持してもよい。  ・禁止技・・・ C 難度以上の技(ダンス系の技を除く)
ゆか	①前後開脚(180度)の跳躍技を含むダンス系の技での移動 ②片足上のターン(360度以上) ③前転とびを含むアクロバット系シリーズ ④後転とびを含むアクロバット系シリーズ(注②) ⑤3つの技からなるアクロバット系シリーズ(⑤は③又は④と兼ねることができる。3つとも空中局面を持つアクロ系技であること。)	・「片足上のターンがない」を削除をする。 ・「終末技を試みない」を削除をする。	・前方倒立回転 ・側方倒立回転 ・後方倒立回転 ・後転倒立 ・伸身とび ・かかえ込みとび ・ねことび ・ウルフとび	・禁止技・・・ C 難度以上の技(ダンス系の技を除く)

注① A難度を認められる技に追加された技も構成要求に使用できるものとする。ただし平均台の前転、後転は使用できない。

注② アクロバット系シリーズとは・・・空中局面を持つアクロバット系の技が2つ以上連続すること。

【採点の指針】

跳馬	・美しい体線での実施 ・スピードと迫力のある実施 ・高さのある実施
段平行	・演技全体を通してスピードと迫力のある実施 ・振幅の大きい実施 ・肘の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施
平均台	・立ち姿勢を含めた技と技の間の動きにおいても常に美しい姿勢での実施 ・アクロバット系、ダンス系の技での正確な実施 ・リズムの変化があり、メリハリと流れのある演技
ゆか	・立ち姿勢を含めた技と技の間の動きにおいても常に美しい姿勢での実施 ・アクロバット系、ダンス系の技での正確な実施 ・演技面を大きく使用した躍動感ある演技